

受講ノートと鬼仏表

3月中旬、役員数名連れだって、北大百年記念会館内にある校友会事務局を訪問した。

一階には、札幌農学校に始まる北大の歴史に関する様々な資料が展示されていた。

まず目についたのは、クラーク「植物生理学」講義受講ノート(1876~77年)である。クラークの植物学の講義を受講した第1期生佐藤昌介のノート。当時の札幌農学校生は外国人教師の講義をノートに筆



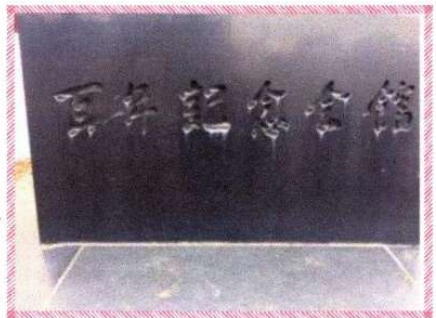
記し、午後の復習の時間に清書ノートを作り、教師に提出して添削を受けたとのこと。展示されているのは添削されたものをさらに書き直したものであろう。流麗な筆記体で書かれている。それも何冊も纏めてハードカバーで、一冊の本のようになっている。

『日本語を全く解さないクラーク先生が滔滔と講ずる植物学や英文学、ベンハロー教授の化学・農学・英語、さらにまた、ホイラー教授の数学・土木工学等の諸学科の講義を聴取しながら英語で書きとるのであるから、満足な語学教育

は受けていなかったはずの学生たちの日々の労苦は筆舌に尽くしがたいものがあった』と同じ一期生だった大島正健は自著「クラーク先生とその弟子たち」1937年に書いている。一期生は16名とはいえ、教師側の労苦も大変なことだったと思う。

次に目についたのが、教員の「鬼仏表」(1979年)だ。北大に入学してすぐ所属する教養部での成績は、その後、志望する学部・学科へ「移行」できるか否かを左右した。教養部生の間では、成績評価の厳しい教員を「鬼」、良い成績を取りやすい教師を「仏」と表現して一覧化した「鬼仏表」が出回り、履修科目を決める際におおいに活躍した。

その内容は ①出欠の有無 ②評価 仏◎、普通○、厳しい△、鬼× ③評価対象 レポート、テスト ④備考欄には教員ごとに・レポートは



必ず期限内・レポート出さずに可・問題を教えてくれる・レポート形式で原稿持ち込み可・授業面白い・ノート持ち込み可・レポートは厳しい・恵迪寮先輩 変わったこと書けば優、など記載されている。学生は楽して「優」を取りたい。教師側も学生の人気とりでハードルを下げている者もいる。打算が見え隠れする。

受講ノート(1876~77)と鬼仏表(1979年)、100年余の間がある。

時代背景も大きく変わっている。学生数も教師数も大幅にふえている。同じなのは20歳前後の青年ということだけだ。両方を比較することは無謀なことと思うが、あえて言わせていただけるなら、我が国からの、世界に通用する人材育成要請に対する、クラーク他外人教師の「使命感」、それについていく多感な学生達の「一途さ」、「けなげさ」に軍配を上げたいと思う。

もうすぐ4月、良い一日だった。

藤田 久雄(当会副理事長)